

2年生保護者様

平成23年度 佐賀県学習状況調査結果の分析について

小城市立芦刈中学校
校長 小森 義美

平成23年4月18日、19日に中学校全学年を対象として「佐賀県学習状況調査」を実施しました。内容は2・3年生は国語・社会・数学・理科・英語の五教科、1年生は国語・社会・数学・理科の四教科および学習・生活に関する調査でした。その結果を分析し、本校生徒の全体的な傾向と今後の指導について検討いたしましたのでお知らせいたします。なお、生徒一人ひとりの学習の状況につきましては、「観点別学習シート(個人用)」を配布しております。また、家庭学習の時間の確保や朝食喫食等に関しては、ご家庭の協力が必要です。基本的な生活習慣の確立が学力に影響を及ぼすとも言われています。ご家庭でもよろしくご指導お願いいたします。

1. 2年生の傾向と今後の指導について

	傾 向	今後の指導について
国語	全体の正答率は、県平均より2.6ポイント上回っている。観点別にみると、「話す・聞く」は3.4、「読む」は4.9、「言語事項」は3.4、それぞれ県平均を上回っている。逆に、「書く」は0.4下回っている。 全体として、県平均をやや上回っており、「読むこと」が得意で、「書くこと」を若干苦手に行っていると言える。	「書くこと」の領域における学習に特に力を入れていきたい。すべての単元で「書く」活動を仕組み、自分の考えや読み取ったことを的確に書き表す力を高めていく。そのための指導の筋道やワークシートの内容などを工夫・研究する。
社会	全体での正答率を見ると、県平均より0.3ポイント上回り、ほぼ県の平均と同じであった。しかし「要努力」の児童生徒人数の割合が県の値を上回っている。 観点別では、特に「知識・理解」「思考・判断」の観点では県平均を上回っているが、「技能・表現」では、県平均を下回っている。 領域別に見ると、「歴史の流れ」「中世の日本」において県平均を上回っている。一方で「世界の地域構成」「古代までの日本」では県の値を下回っている。	「知識・理解」「思考・判断」の観点では県平均を上回っているものの「技能・表現」では、県平均を下回っているため、授業の中で、今以上に、地図や資料などを使ったり、読み取ったりする作業的な学習を多く取り入れていきたい。 「歴史の流れ」「中世の日本」において県平均を上回り、「世界の地域構成」「古代までの日本」で県の値を下回っている。学習してから時間を取っていない領域での正答率が高いところから、時間の経過によって記憶があいまいになっているようである。学習した内容が定着できるよう、家庭での学習や復習テストなどを取り入れていきたい。
数学	全体での正答率は県の正答率を下回っている。観点別に分析してみると、「見方や考え方」と「表現・処理」の正答率は県よりも低く、「知識・理解」の正答率は県とほぼ同程度である。領域別にみると、「数と式」「図形」「関数」においては県平均を下回っており、「資料の活用」の領域は県平均と同程度である。	今年度、2年生は毎週週末に問題集の課題を提示し、週の始めに集めるという取り組みを進めてきた。今後も同様の取り組みを続けていくと同時に、理解が十分でない生徒に対しては補習などを行うなどし、さらにきめ細やかな指導に取り組んでいきたい。 「見方や考え方」の正答率が低いのは、文章を読み取る力の不足が考えられるため、様々な問題を解く機会を増やしていきたい。
理科	本校の全体の内容に対する正答率は、47.5%で県正答率の51.5%を4ポイント下回っている。評価観点別到達度分布において、「科学的な思考」と「技能・表現」は、ほぼ県平均並みであるが、「知識・理解」において十分達成の生徒が県平均より17.1ポイント下回っており、要努力の生徒が15.2ポイント上回っている。内容・領域別では、大地の成り立ちと変化での要努力の生徒の割合が83.0%と突出して多く、十分な理解ができていないようである。	授業内容において、実験観察に対する関心の高い生徒が多い反面、基礎基本的な内容を覚えることやノートにまとめることを苦手とする生徒が多い。そこで、テストのやり直しや章末問題及び問題集などの基礎基本的な内容についての取り組みを確実にしていきたい。学習内容をまとめる力を身につけさせるために、ノートに学習内容をまとめるということを確実に行わせたい。人の話を聞く能力を高めるために、授業中の話の聞き方や正しい姿勢で授業に取り組むなどの基本的な学習訓練等も重点的に指導していきたい。
英語	全体的に「おおむね達成」している生徒が県より1%低いものの良い結果と考えられる。観点別に分析してみると、表現が県平均よりわずかに下回っている。しかし、「理解力」と「知識・理解」においては、県平均を上回っている。内容領域に関しては、「聞くこと」と「読むこと」が県の平均と同レベルであり、「書くこと」については県平均を下回った結果となった。以上のことから、「表現力」の観点における「書くこと」において不得意な生徒が若干多く、読む力や聞く力などの「理解力」については、おおむね達成の生徒が多い状況であることが推測される。	授業の始まりのウォーミングアップでリスニング力アップのワークシートを活用したり、単語の並べかえの小テストを繰り返したりした結果、「知識・理解」の力がついてきていると推測されるため、今後も継続した取り組みとワークシートのさらなる工夫を行うことにより、能力の向上が期待される。また、「表現力」においては、コミュニケーション活動を継続して取り組み、分析結果から、特に「英作文」などの「書く力」をつけるための工夫が必要であると考えられる。よって、「自己紹介や詩」などの英作文をプレゼンテーションする形をとり、自分の作ったものを、パソコンのパワーポイントを使った一つの作品として完成させ、その達成感から、やりがいがあり向上心が高まるような指導へと授業改善していくことが必要であると考えられる。

2. 2年生の学習・生活に関する調査結果の特徴的な傾向について (○はよい傾向、△は課題と思われる傾向を表わしています。)

- 家庭学習する習慣がついており、平日1～2時間勉強する生徒が49.1%、2～3時間の生徒が26.4%、3時間以上の生徒が1.9%であった。
 - 自分で計画を立てて勉強をしていると答えた生徒が多い。
 - 学校の授業の復習をしていると答えた生徒が多い。
 - テストで間違えた問題について、後で勉強していると答えた生徒が多い。
 - 朝食を毎日食べてきている生徒が90.4%と多い。
- △ 学校の授業の予習をしていると答えた生徒の割合が、県平均に比べると少ない。